

プロジェクト課題活動実績

課題名：阿武萩トマト産地の維持・発展

萩農林水産事務所農業部

チーム員：兼常久美子、高橋美智子、石津恭子、
前田剛、大澤朋子

<活動事例の要旨>

生産者の高齢化が進む夏秋トマト産地（山口あぶトマト）の維持・発展及び、法人連合体による新規トマト栽培事業の円滑な運営による地域営農の継続を目指し、活動を行った。

夏秋トマト産地では、部会や関係機関と連携して、新規就農者受入体制を検討した。さらに、就農希望者の募集活動として、「産地見学会」や「就農夢ツアー」の開催を支援した。また、既存新規就農者の早期経営安定や部会全体への生産安定に向けた取組を実施した。

新規に施設園芸事業に取り組む法人に対しては、運営初期段階であることから、役員と現場担当者との協議が円滑に進むような運営体制づくりを支援するとともに、社内での経営課題の整理や共有を進め、生産性向上にむけた取組を実施した。

1 普及活動の課題・目標

(1) 課題の背景

管内の山口あぶトマト部会高俣支部は生産者の高齢化やリタイアにより、生産者数、栽培面積が減少し、産地の縮小が懸念されている。産地の維持発展のため、新規就農者の確保・育成や、中核生産者の育成、後継者の確保に向けた取組を実施する必要がある。

新規就農者の確保・育成としては、これまでも部会や関係機関と連携し行ってきたが、更なる確保のために、スムーズに地域や部会に入っていける体制と生産・経営目標達成のための技術習得が課題となっている。また、産地の抱える生産課題として、夏期の高温による収量・品質の低下や病害の発生、品種に合わせた肥培管理等といった課題があり、部会全体の単収の向上に向けた取組が求められている。

萩アグリ（株）は、環境制御型施設で令和4年から本格的にトマト・ミニトマトの栽培を開始している。これに伴い、新しく従業員を雇用し、運営体制の整備、環境制御技術の習得等が必要とされているが、現状では、日常の管理作業に追われ、目標達成にむけた課題解決が後回しにされている。運営体制の確立支援を行うとともに、従業員の環境制御技術の習得、効率的な作業体制の確立による生産性の向上が必要である。

(2) 目指すべき方向性

山口あぶトマト

- ・ 就農希望者の受け入れ体制の強化と新規就農者の早期経営確立による産地の担い手確保
- ・ 中核生産者の規模拡大、後継者支援による山口あぶトマト産地の維持・発展

萩アグリ（株）

- ・ 新規トマト栽培の円滑な運営と雇用者の確保による地域営農の継続

2 普及活動の内容

山口あぶトマト

(1) 担い手の確保・育成

ア 新規就農者受け入れ体制の検討、新規就農者の募集活動

新規就農者の受け入れ体制を検討するため、萩市と協議を行い、現状の課題を整理した。円滑な技術習得のためには就農までの研修体制が重要なことが認識された。

また、新規就農希望者を確保するため、「産地見学会」や「長門・萩就農夢ツアー」の開催を支援した。開催にあたっては、関係機関と協議を行い、参加者の確保のため、萩市・JA・やまぐち振興公社等を通じて募集活動を行い、萩市から過去の就農相談者や移住希望者等、幅広く情報提供することとした。



参加者への産地説明



生産者による栽培状況の説明

イ 新規就農者の早期経営確立

部会役員より、新規就農者を含む若手生産者の早期経営確立に向け、技術部会員が、若手生産者のほ場を巡回しアドバイスを行う若手研修会の実施が提案され、運営支援を行った(高俣・阿東支部合同開催)。また栽培後期に高俣支部役員の発案で役員と若手生産者の情報交換会(高俣支部)、更に栽培終了後には、高俣・阿東支部合同の若手役員と若手生産者との情報交換会も開催された。また個別対応として、2名の新規就農者を対象に、草勢管理や病害(褐色輪紋病)の課題について重点指導を行った。



役員と若手生産者の情報交換会(高俣)



新規就農者への個別対応

(2) 生産安定及び収益の確保

高俣支部の講習会や班別研修会などにおいて、栽培管理講習を行い、予想される気象状況や病害虫発生状況を踏まえて栽培管理指導を行った。

さらに、役員からの提案により、次作にむけて、支部ごとであった施肥設計モデルと防除モデルの統一に取り組んだ。



班別研修会



栽培講習会 (反省会)

萩アグリ (株)

(1) 運営体制づくり

役員と現場担当者が協議し、情報共有する場がなかったことから、「トマト運営会議」の開催を提案した。当初は雑談形式であったが、事前に打ち合わせをすることで、役員からの提案事項、現場担当者からの現状報告と今後の計画が円滑に報告されるようになった。また、月ごとの目標達成状況が確認できるよう、月別目標の作成支援を行った。

運営会議では、計画と比較して、売上に対する労務費の割合が高いことも認識され、これらの課題を解決するために必要な対策を検討した。



トマト運営会議

(2) 生産性の向上

ミニトマト栽培では、県が県内企業と共同開発した「ゆめ果菜恵（隔離栽培システム）」や「EVO マスター（統合環境制御システム）」が導入されており、定期的に農林総合技術センター等とともにシステムの操作方法や生育・環境に応じた施設管理方法について現地指導を行った。地域に合わせてマニュアルを見直し、萩アグリ版管理基準の作成支援を行った。

また、売上に対する労務費の割合を抑えるため、収穫調製作業の効率化を提案した。雇用型のトマト経営体への視察や生産性のデータ整理の支援を行うことで、改善にむけた意識向上を図った。



雇用型トマト経営体への視察

(3) 労務管理の改善

労働時間の大半を占める収穫調製作業について、労働効率を上げるため、作業時の動線や人員配置の状況を調査し、改善事項を提案した。

3 普及活動の成果

山口あぶトマト

(1) 担い手の確保・育成

ア 新規就農者受け入れ体制の検討、新規就農者の募集活動

「産地見学会」には4名、「長門・萩就農夢ツアー」には5名の参加があった。そのうちの数名については、萩市による就農相談が継続されており、今後、新規就農者の候補となることが期待される。

イ 新規就農者の早期経営確立

若手研修会、情報交換会等が高俣支部と阿東支部合同で行われ、若手生産者の技術習得だけでなく、支部を超えて交流することができ、相互理解に繋がった。昨年より出荷量が増加した新規就農者も確保できたが、猛暑の影響もあり新規就農者の平均収量は6.7t/10aにとどまった。

(2) 生産安定及び収益の確保

支部会や班別研修会等の部会活動を支援し、病害虫の発生や生育状況の情報提供を行った。猛暑の影響により、出荷数量は前年より少なくなった。また、施肥設計モデルと防除モデルの統一基準を作成し、部会全体での単収向上にむけた意識が高まった。

萩アグリ (株)

(1) 運営体制づくり

「トマト運営会議」が定期的開催されるようになり、現場担当者からの報告・提案により役員が現状を把握できるようになった。また、目標と目標に対する達成状況が共有されることで、経営課題が明確になり、対策を協議ができるようになった。

(2) 生産性の向上

農林総合技術センター等と連携した現地指導により、環境制御技術や機器の設定方法について、従業員の技術習得が進み、大玉トマト(夏秋+冬春)20.6t/10a、ミニトマト11.4t/10aが達成できた。また、経営状況を整理することで、作業効率を上げる必要があることが認識され、収穫調製作業の改善やミニトマトパック詰め機の導入に繋がった。

(3) 労務管理の改善

調製作業の調査を実施することで、動線の確保や作業の流れに課題があることが分かり、作業スペースの確保や作業者の固定化など、徐々に改善が進みつつある。

4 今後の普及活動に向けて

山口あぶトマト部会については、引き続き新規就農者の確保・定着を進めるため、部会や関係機関と密に連携しながら、募集活動や支援体制づくり、就農後の早期経営確立支援を行っていく。また、安定生産のためには、高温対策や病虫害防除の徹底が求められることから、これらに対応した取り組みを進めていく。

萩アグリ（株）については、本格的な栽培開始から1年が経過したが、経営課題の把握やその改善を円滑に進めていくための情報収集・整理に課題がある。特に、生産性の向上にむけた作業効率の改善は、早期に取り組む必要がある。引き続き、経営部門と栽培部門の両部門の状況を把握しつつ、課題の解決に向けた支援を行っていく。